

NotebookLMが切り拓く、新しい情シスの形

「終わらない調査・ドキュメント作成」からの解放と、AIオーケストレーターへの進化

PCNW 第四回勉強会 配布資料




人は増えないのに、やることは増え続ける。
その限界を突破する神ツールの全貌。




111名のアンケートが語る、情シスの「リアルな痛み」


勉強会参加者の声から浮き彫りになったのは、最新技術の追求以前に、日々の「ドキュメント作成」と「終わらない問い合わせ対応」にリソースを奪われている現状です。



 **情シスとしての気づき:** 他社の情シスも同じ悩みを抱えている。「一人情シス」や「兼務」の限界を個人の努力で乗り切る時代は終わり、仕組み (AI) による根本的な解決が急務である。

なぜ「普通のAI」では情シス業務に使えないのか？

比較項目	汎用AI (ChatGPT / Claude等)	グラウンディングAI (NotebookLM)
 学習・参照元	インターネット上の不特定多数のデータ	✓ 指定ソースのみ
 生成メカニズム	確率的な文章生成(推測)	✓ ソースに基づく抽出と統合(RAG)
 ハルシネーション	発生しやすい	✓ ほぼゼロ(根拠・引用元の明示)
 最適な用途	アイデア出し	✓ 専門資料の分析・社内情報の整理

 **情シスとしての気づき:** 企業データを扱う情シスにとって「ハルシネーション (もっともらしい嘘)」は命取り。外部の記憶を遮断し、与えた資料"だけ"で思考する「グラウンディング」こそが絶対条件である。

情報を「自分専用の専門家」に変える3カラム・アーキテクチャ

① ソース管理
(指定データのみを知識源に)



② 対話エリア
(引用リンク付きの正確な回答)



③ アーティファクト生成
(俯瞰的コンテンツの自動生成)



情シスとしての気づき: NotebookLMは単なるチャットツールではない。社内に散在する規程やマニュアルを統合し、出典が明らかな「パーソナル知識エンジン」を構築するプラットフォームである。

日常業務のブレイクスルー：社内ナレッジの即時FAQ化

過去のトラブル対応記録やバラバラの社内規程を投入するだけで、類似事象の解決策を要約。ユーザーからの「繰り返し質問」に対する一次受けAIが完成。

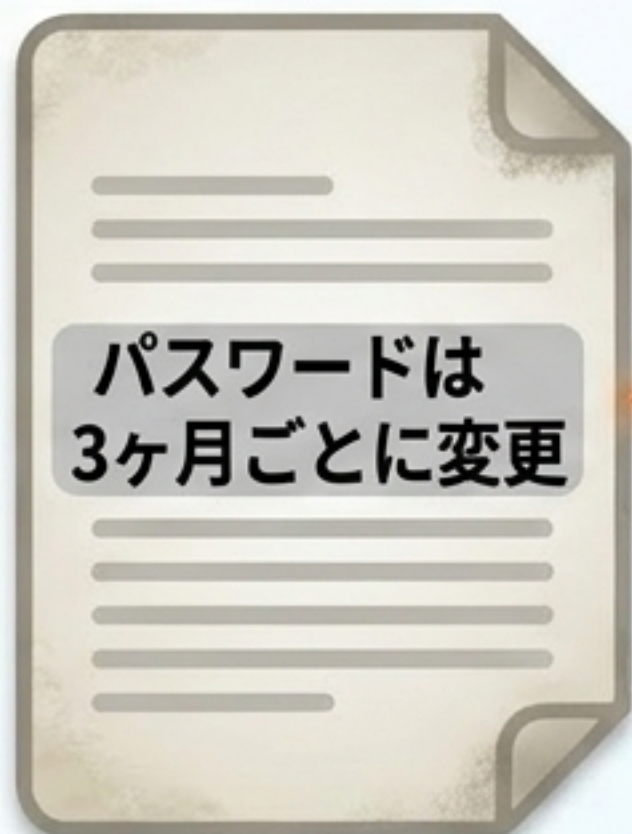


💡 情シスとしての気づき: 問い合わせ対応（ヘルプデスク）の時間を劇的に削ることで、情シスは本来やるべき「IT戦略の立案」や「セキュリティ強化」に時間を使えるようになる。

攻めと守りの監査業務：セキュリティ規程のガチ添削

サプライチェーンのセキュリティチェック（SCS評価制度など）への対応。公式ガイドラインと自社規程を読み合わせ、不足項目と改定案をピンポイントで抽出。

自社の（古い）
セキュリティ規程



AI ロジック



IPA 中小企業の情報
セキュリティ対策ガイドライン



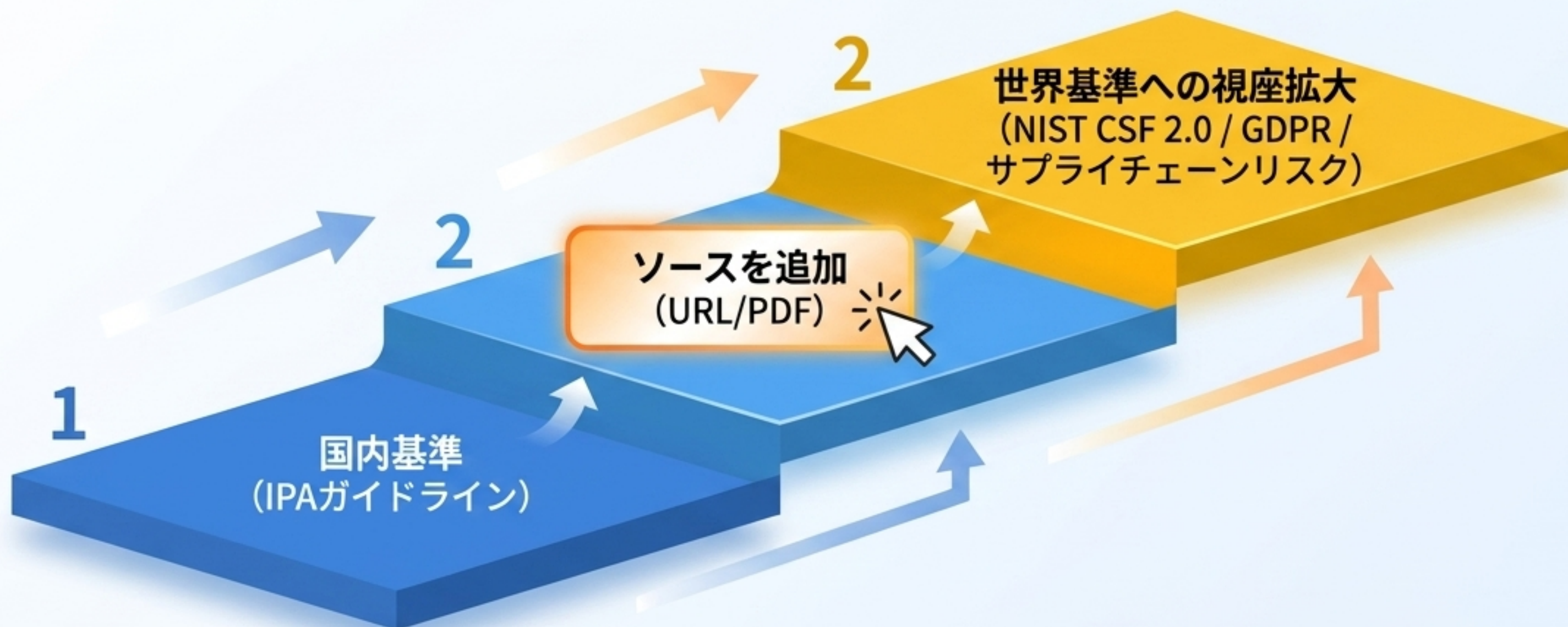
! 不適合: 最新の総務省・NIST基準
では定期変更は非推奨です [1]



情シスとしての気づき: 13年前から続く「パスワード定期変更」の不毛な論争も、AIが公的な根拠（引用元）付きで論破してくれる。ガイドラインの目視チェックという苦行はもう不要。

魔法の「ソース追加」：一瞬で視座をグローバル基準へ

プロンプトを書き直す必要はない。GDPRやNISTの解説URLを「ソースに追加」して再質問するだけで、AIの脳内が世界基準にアップデートされ、自社に不足する統治（GV）機能などを洗い出す。



💡 情シスとしての気づき: 自分がGDPRやNISTの専門家である必要はない。適切な「検索キーワード（基準）」を与え、AIにギャップを埋めさせることで、会社のガバナンスを一気に引き上げられる。

最強の連動ハック：NotebookLM × Gemini

監査結果をそのまま上司に持っていても「なぜ今変える必要がある？」と反発される。NotebookLMの冷たい事実をGeminiに渡し、「上司が納得する投資対効果（ROI）を含めた稟議書」を書かせるのが情シスの最適解。

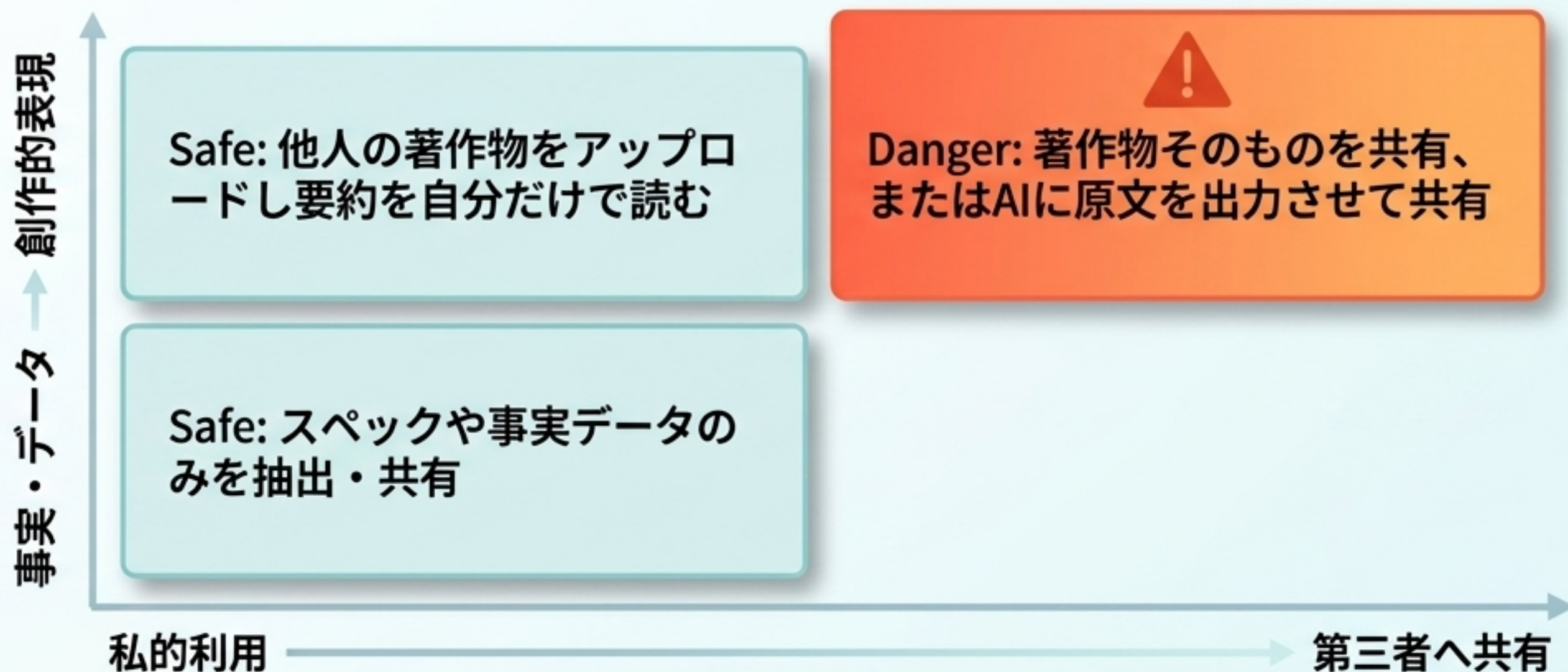


💡 情シスとしての気づき: 固い実務や事実のチェックは外に漏れない「NotebookLM」に。人間社を通すための知恵や社内政治のロジックは「Gemini」に。この連携で孤独な戦いが完結する。

リスクを回避する「セーフティ・マトリクス」

便利だからこそ、社内展開時には明確なガイドラインが必要。

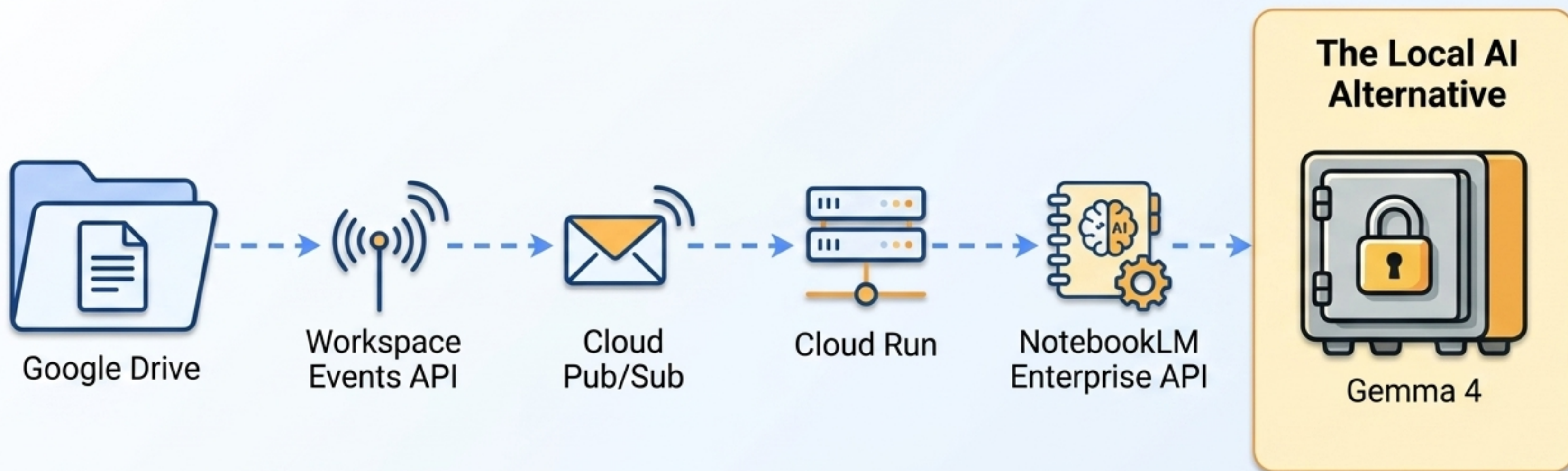
著作権法（35条等）や個人情報（PII）の取り扱いにおける「安全」と「危険」の境界線を定義。



情シスとしての気づき: 鉄則は、共有時は必ず「チャットのみ」モードを使用し、指示は「要約・分析」に留めること。シャドーTを防ぐための正しいルール作りが情シスの腕の見せ所。

自動化の未来と、究極の機密データ保護

Enterprise APIを使えば、Driveの更新に合わせてナレッジベースが全自動で最新化。絶対に外に出せない医療・機密データには、ローカルAI環境の構築という選択肢も。



情シスとしての気づき: 手作業でソースを更新し続ける運用は破綻する。将来的なAPI連携を見据え、今のうちから「社内ドキュメントの保管ルール」を整理・統一しておくことが重要。



「泥棒」から「編集者」、そして「AIオーケストレーター」へ

「独創性とは、情報を独自の文脈で編み直すこと」

知識を溜め込むだけの時代は終わりました。AIが「読む・まとめる・作る」を代行する今、情シスの真価は、情報を独自に編み直すことにあります。



情シスとしての気づき: 情シスはもう、終わらない調査やヘルプデスクに消耗する部署ではない。適切なAIと適切なデータを指揮し、会社の生産性を根本から書き換える「AIオーケストレーター」である。明日から、自社の業務をどう編集しますか？